

二〇一四年一〇月二二日

カルストの真澄の空へ鵬猛る  
ダンプカー追ひて高舞ふ落葉かな  
稲架の骨残して谷戸の昏れなんと

よし女  
みちほ  
三刀

二〇一四年一〇月三〇日

出来秋や田の神さあの注連替へて  
鴨堤一駅歩き秋惜しむ  
突き抜ける空の青さや紅葉山  
干潟の陽散らして群る千鳥かな

よし女  
はく子  
ひかり  
三刀

二〇一四年一〇月二九日

苔庭に散華さながら紅葉敷く  
カルストの一望千里秋惜しむ  
秋冷の堂に黙して座禅組む

満天  
よし女  
有香

二〇一四年一〇月二八日

村紅葉行き会ふ老の笑顔かな  
金風へ蔀戸上げし阿弥陀堂  
大提灯軒に古りたり紅葉茶屋

ひさ野  
菜々  
菜々

二〇一四年一〇月二七日

秋惜しむ紫煙ただよふ堂縁に  
黄落の梢を透かす落暉かな  
大輪の菊を育てて兄卒寿

菜々  
みちほ  
はく子

二〇一四年一〇月二六日

鴉追ひ猫木のぼりす柿日和  
塀のなき大原の里秋うらら  
秋思かな失せ物探すこと多し

みちほ  
菜々  
はく子

二〇一四年一〇月二五日

児童らの作も特賞菊花展  
溝ぞばの翳を揺らして鯉動く  
青竹の笥さ走る秋の水  
嵯峨の径異国の人と秋惜しむ

はく子  
三刀  
あさこ  
雅流

毎日句会みのる選・二〇一四年十一月二日